

第5回 水俣学 若手研究セミナー

水俣病の現在と水俣学の試み

水俣学研究センターは、地域に根ざし現地に学び、水俣病という負の経験を将来に生かすことを目指して設立され、調査研究・教育に取り組んできました。今回のセミナーは、私たちのそうした取り組みをベースに、次の世代を担う若手研究者と「水俣病事件の現在」を共有し、共に学ぶことを目的に開催します。なお、水俣学のモットーである現地に学ぶことを大切にし、座学ばかりではなく現地でのフィールドワークを大切にします。

水俣病を直接研究テーマにするだけではなく、人類の負の遺産としての水俣病を学び、自分自身の研究活動に活かすことを目指す参加者を募集します。



2017年

9月8日(金)

~10日(日)

募集人数 15名
受講料無料

*水俣までの交通費及び水俣での宿泊費は各自でご負担ください

主会場
水俣学
現地研究センター
(熊本県水俣市浜町 2-7-13)

お問い合わせ先
熊本学園大学
水俣学研究センター
tel:
096-364-8913
e-mail:
minamata@kumagaku.ac.jp

9月8日(金)

オプションツアー：
水俣がはじめての人向けの水俣現地案内

開会式および趣旨説明、参加者自己紹介
セミナー① 花田昌宣 (水俣学研究センター長)
特別セミナー 高峰武 (熊本日日新聞社論説顧問)

9月9日(土)

セミナー② 田尻雅美 (水俣学研究センター 研究員)
フィールドワーク：水俣病被害者聞き取り

各グループからの聞き取り成果報告
受講者による討論会
湯の鶴温泉での懇親会

9月10日(日)

セミナー③ 中地重晴 (水俣学研究センター 事務局長)

グループごとの議論
まとめのグループ報告と総合討論
閉会式

講師陣と担当セミナー



特別講師

高峰武 熊本日日新聞社 論説顧問

メディアからみた水俣病
—反省と課題



花田昌宣 熊本学園大学 教授
水俣学研究センター長

水俣病 61 年と水俣学の展開



田尻雅美 水俣学研究センター 研究員

水俣病患者の補償・救済制度
～地域で生きるとは～



中地重晴 熊本学園大学 教授
水俣学研究センター 事務局長

水俣の水銀汚染の現状と課題

その他、フィールドワークでの案内等については、これら講師のほかに、水俣学研究センター関係者や水俣の住民が担当することがあります

応募資格・方法

応募資格：①大学院生あるいはPD、またはそれに相当する研究歴を有し、積極的に参加する意思を持つ者
②大学などにポストを有する研究者で、水俣病に関心を有する者
③卒業研究において水俣病等を課題としている学部生で、指導教員の推薦を得た者
*これらに該当しない場合はご相談ください

提出書類：①略歴書(所定の書式を使用、メールアドレスを明記)
②自分の研究テーマ(1200字程度で記載、様式自由)

応募締切：2017年7月31日[月]

受講者の決定：8月中旬に通知します(定員を超えた場合は、応募書類にもとづき水俣学研究センターにおいて選抜)
*受講者はセミナーの全日程に参加することを前提とします
*セミナー開催期間中の宿泊について、1泊目は各自で手配をお願いします(宿舍の紹介はいたします)

応募・お問い合わせ先

〒862-8680 熊本県熊本市中央区大江2丁目5-1 熊本学園大学水俣学研究センター
tel: 096-364-8913 / e-mail: minamata@kumagaku.ac.jp